

カプカプひかりが丘新職員紹介！

昨年5月にひかりが丘の職員として採用されました千葉薫です。実は私、カプカプとはもうかれこれ20年近いお付き合い。ひかりが丘だけでなく、竹山や川和でも長い間バイトスタッフとして関わらせてもらっていました。その後生活の場を海外（タイ）に移したことで中々顔を出せない時期もあったのですが、いつの間にやらしれっと日本に、そしてカプカプに戻り、現在に至ります。職員としてはまだまだ未熟ではありますが、カプカプを盛り上げるスタッフの一員として、より一層努力してまいります。今後ともよろしく願いいたします。また余談にはなりますが、「やまなし」の作者・宮沢賢治と同じ8月27日生まれの私、カプカプとは不思議な縁を感じている次第です。



(写真右上) 2020年11月13日開催「ひかりニャンチュウフェスタ」に。ネズミ年の年女・年男たちがひかりが丘のみなさんを元気づける秋の祝祭でした。(写真左) 人気メニュー「コロナ不安を和らげる自家製ハーブティ」としてお出しているハーブの苗の買い付けに、七沢森の家に。カプカプ運営委員の原田さん、調理ボウの津谷さん、洋裁教室の大野さんと一緒に週末一日デートでした。

ひかりが丘店 (since 1998) 2020 4. - 2021. 3. www.facebook.com/kapuhikari/

コロナ禍一年目を、振り返る

とにかく、みんなの、大事な居場所であり、はたらく場所である、カプカプを、閉めずに、開け続けること。そして、常連さんの大事な居場所であり、集う場所である、カプカプのお店を、閉めずに、営業し続けること。そのために、やったこと。どれだけ効果があるかはわからないけれど、感染リスクを、少しでも下げられるように思えることで、できることは、基本的になんでもやれる方法を考えてみようと思った。もちろん、「リスクゼロ」なんてありえない。例え、カプカプや、カプカプのお店を閉じたとしても、当然、カプカプ以外での生活もあるのだから、やはりリスクはゼロになんかならない。結局、いつ、それが、どこで感染するかわからないけれど、できる限りのことはやる。そうして、少しでも、「安心」して、カプカプに来てもらって、他のどこにも行けなくても、カプカプには、ある程度安心して、来られるように、したい。メンバーも、スタッフも、常連さんも、みんな、丸ごと、カプカプで、守る。大きく言うと、それくらいの気持ちだった。

感染予防対策としては、まずメンバーもスタッフも全員車両送迎&車通勤の体制づくりを模索した。これは2020年の4月以来、今もずっと調整を続けながら続行している。いつもの送迎体制じゃ全く足りないから、色々な人に協力してもらったり知恵を貸してもらったりしながら、何とか今のところ工面できている。感染予防対策のもうひとつの大きな柱。徹底したアルコール消毒。コロナ禍がはじまってすぐの頃は、とにかく入手が困難で消毒液の確保が大変だった！ ネットショップを監視し続けて、出た瞬間に注文する、というのが週末のひとつの大仕事になった。コロナ禍以前からカプカプで愛用している、ドーバー酒造というお酒屋さんがつくっている高濃度アルコール消毒液「バストリーゼ」は、無添加で手も荒れないし食品噴霧可能な信頼できる



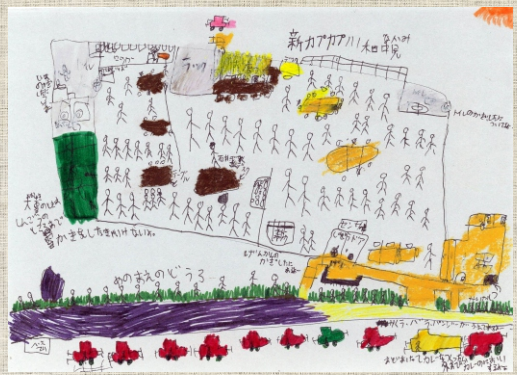
KAPU KAPU GALLERY



カプカプ竹山の店頭を鮮やかに飾る旗 (共同制作)



「ナマケモノ」 藤原直美



「新カプカプ川和」 鶴見佑太
「新カプカプ川和中見」
「大雪のときはしんごうのところまで雪かきをしなきゃいけないよ。」
「トイレのかぎしたについてるよー」
「トイレのかぎしたについてるよー」
「げんかのかぎしたにあるよー」
「サクラ、バラ、パンジーがうえてあるよー」
「まだあけてカレーをつくったら外までカレーのにおいするよー」
「めのまへのどうろ」



「ヘビクイワシ」 新沼仁望



「ウジャ」 鶴飼剛史
「父」「石?」「いわのウシ」「さんす石?」「へありリウシヤ」

「旧川和」との涙のお別れ、そして、「新川和」でやりたい事！



お別れの日全員集合！

旧川和の壁に描かれたアマビエ



旧川和とは、2021年1月30日で涙、涙のお別れとなりました。1月23日～30日の1週間でパフォーマンスをしたり、建物に個人個人の思い出の装飾をしました。装飾後のカプカプ内はとても明るく、「カプカプ川和」を象徴するような仕上がりになったと思います。解体は、あっという間に進んでしまいましたが、「移転」というなかなかできない体験ができました。

新川和では、新しいオープンが入ったり本格始動に向けての準備に追われています。トイレの「おむつ替え台」や「菜の花畑が見える客席」などが設けられ、旧川和で実現できなかった事を可能にできると考えています。これから、地域の方や常連さんにたくさん来ていただけるお店にしたいと思っています。

今、頭に思い描く構想はたくさんありますが、「地域とカプカプが繋がる場所」「地域の人が集える場所」がメインテーマかなと思います。移転後は、旧川和の時よりも、道を歩く人や地域の人との距離が近くなったように感じています。その特性を生かした場所作りをしていきます。それから、「メンバーとお客様が名前呼び合えるお店（場所）」にもしていきたいです。人との距離が近いのも川和の良さなので、その良さを前面に生かしていきたいと思っています。メンバーと協力しながら新川和を盛り上げて行きたいと思っています。乞う、ご期待！（幸田）



←新川和建物全景。1階部分がカプカプ川和。2階はアパートになっている。



周りを囲んでいるのはカプカプ川和の10年間のあれこれを書き留めた「年表」です。全長は20メートルに及び、このページで紹介するにはあまりに小さくなってしまいました。引越し前の「イベント週間」に今は無き旧カプカプ川和で披露したのですが、あいにくこのご時世で「無観客イベント」となったので幻の年表となってしまいました。ここではこの年表を紹介しつつこの10年をほんの少し振り返りたいと思います。

この年表の特徴は、記録に頼らず記憶で作ったことです。紙の上に「年」と「月」を配置する「ウェルカム」が得意なメンバーが過去にあった様々なイベントを次々と書き込んで行きます。その「手書き」の文字の勢いが、書き込まれたイベントそれぞれの印象の強さを表しているようです。

記憶が鮮明に再現する出来事は必ずしも一致しません。「弁当をひっくり返して泣いた」とか「電車で傘を忘れたけど戻ってきた」とかの出来事が、お祭りや、1泊旅行と同じ大きさで書かれています。「生活介護事業に移行」なんて影も形もありません。この10年間は、わくわくしたりドキドキしたり、そんな出来事ばかりだったみたいで、本当にそんな10年だったのなら悪くないかなあ、と思いたいところですが、決してワクワクドキばかりではなかったことも知っています。この年表、私にとって少し恥ずかしくなる年表にもなりました。新しいカプカプ川和でお目にかけたいと思っていますが、その中で繰り返しでてくるのが「ウェルカムカプカプ川和ようこそ」の文字。その時々、新たに仲間入りした人達を「ウェルカムようこそ」と迎えているのです。いままで数少ない人を迎え、「ワクドキ」もそうでない時も共に経験してきました。そして何人かの人達を見送りもしました。「ウェルカム」の後こそ色々な事があるのを知ることでもできました。それでも開所以来変わらず「ウェルカムようこそ」をメンバーは言い続けて来てくれました。これからの10年（以上）もカプカプ川和はメンバー共々「ウェルカムようこそ」であり続けるでしょう。いままで支えて下さった皆さま、ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。（いしいまさたか）

↑2018年